

第 68 回大腸癌研究会

化学療法プロジェクト研究 議事要旨

日時:2008年1月24日(木)

出席委員:島田安博、杉原健一、望月英隆(代理)、

欠席委員:前原喜彦、荒井保明、兵頭一之介

オブザーバー:植竹宏行(東医歯大)、濱口哲弥(国がん中央)

下線部が、当日の討論を反映したもの。

配布資料:mFOLFOX6+BV の IC、各種レジメン点滴内容、パス2件

1. 大腸癌研究会主導の臨床試験に関する検討

継続的に実施可能性について検討する。

現状では、適応症や未承認の問題が解決されず、科学的に興味のある臨床試験を計画することができない状態である。

07年11月;カペシタビン(補助療法)

08年度:アービタックス、オキサリプラチン(補助療法)

問題点:海外データと国内少数治験データのみ。一般臨床での安全性の担保は不十分。

研究会主導の臨床試験は保留。

高齢者の抗癌剤治療の現状調査が提案され、プロトコール作成、研究会倫理審査委員会審査後に調査開始することが了承された。転移性大腸癌で、75歳以上の患者の治療現況をアンケート形式で調査する。

2. 大腸癌標準的化学療法に関連する「有害事象とその対策」

大腸癌治療ガイドラインにおいて推奨されている抗癌剤治療レジメンに関連する主な有害事象とその対策に関して具体的処方(項目毎、レジメン毎)を挙げて対応を示す。

悪心・嘔吐、下痢、白血球減少

作成案を逐次検討し、委員の確認後に、大腸癌研究会のHPへ掲載予定。

3. 大腸癌標準的化学療法に関連する「説明と同意文書」、「クリニカルパス」の公開

大腸癌治療ガイドラインにおいて推奨されている抗癌剤治療レジメンの説明と同意文書を公開する。医師を含めた医療関係者と患者、家族を含めた一般人が閲覧可能とする。

病状、治療方法、期待される効果、有害事象、医療費などを含む内容を予定。

mFOLFOX6+BV、FOLFIRI+BV、FL(RPMI, deGramont)、UFT/LV

今回は点滴の標準的レジメンを呈示し、これらもHPで掲載する方向で承認された。

医療費に関しては、専門家に参加いただき、作成を依頼する。

大腸癌研究会のHPへ掲載予定。クリニカルパスは出版社の了解済み。